

はしど



平成31年 2月 1日
学校だより 第10号
練馬区立橋戸小学校
校長 青木俊哉
<http://www.hashido-e.nerima-ky.ed.jp/>

☆学校教育目標

考える子・思いやりのある子・たくましい子

春を前に…

校長 青木俊哉

2月に入りました。早いもので、今年度の登校日も36日（1～4年生は35日）を残すのみとなりました。また、平成もあと3月…という歴史的な時期を迎えています。年度末を前に、改めて、今の学年で習得すべき力が十分に身についたか、学習したことは定着し活用できるか、学年に応じた生活習慣や規律は大丈夫か、時と場に応じたあいさつや言葉づかい、相手とのコミュニケーションはとれるかなど、各学年・学級で…、一人一人が…、ご家庭でも…確かめていく必要があります。また、2月は、今年度最後の「ふれあい・いじめ防止月間」です。子供たち一人一人の心に寄り添い、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、働きかけてまいります。保護者、地域の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて、2月といえば「節分」「立春」です。

ご存知のように、これらの言葉は、旧暦による季節の区切りを指す二十四節気^{にじゅうしせつき}に由来します。立春は、文字通り“春の初め”ですが、旧暦の下では、この日を“一年の初め”としていました。四季それぞれに“初めの日”、立夏、立秋、立冬があり、その前日、つまり“前の季節が終わる日”を節分と呼びます。ですから、節分は年に4日あります。その中でも、“冬の終わり”にあたる節分（2月3日）は、“一年の終わり”にあたる日、大晦日の意味をもつ一日でもあることから、今日まで「節分」として定着してきているのです。

季節や一年の終わりに生じるとされる邪気（鬼）を追い払い、よき年が来ること、縁起を願って行われてきた行事や風習が「豆まき」や「柊鯛」（柊の枝に焼いた鯛の頭を刺した物を戸口に立てる）です。これらの行事や風習には、鬼に豆をぶつけることにより邪気を払い無病息災を願う、豆（穀物）の生命力にあやかり健康を願う、鬼を追い出し代わりに福を招き入れる、柊のとげや鯛の臭気を生かし魔除けとするなど、昔からの知恵や思いが込められています。

今日では、それ以上に、恵方巻の方が有名と言えるかもしれません。関西地方の風習であった太巻き寿司ですが、ここ数十年で、恵方巻としてあつという間に“全国区”になりました。決まり事は、“恵方を向いて、太巻きを言葉を発さずに食べきる”だったのでしょうか、実行されるご家庭も少なからずあることと思います。また、昨年は、恵方巻の売れ残り…も話題となりました。飽食の時代と言われて久しいですが、古くからの慣習・風習を大事にするとともに、物を大切にすることも継承していきたいと思えます。

「節分」は明後日、「立春」は来週の月曜です。

“春とは名ばかり”の厳しい寒さが、まだしばらくは続きそうですが、梅のつぼみや柳の芽などを見かけると、春の訪れを感じます。「春、見つけたよ～！」の声が、校長室にも届くことを楽しみに待っています。

「今年のことは、今年のうちに！」できることから計画的に、まとめや振り返りを進めていきましょう。